

社会とつながり、主体的に考え、判断し、行動する子どもの育成

【教育課題】

- 学習への期待感や意欲の向上
- 主体性、協働性の向上
- 自己有用感の向上

【経営課題】

- 指導力、経営力の向上(人材育成)
- 主体性、協働性の向上
- 子どもと向き合う時間の創出

気づき
考え
行動する

- 自分や他者、社会のよさに目を向ける
- 自他がよりよくなるための課題や目標を発見する
- 目標達成に向かって、創意工夫しながら努力する
- 違いをいかして、対話的に知恵を集める
- 問いや課題を見出し、粘り強く追究し、解決する
- 自分や社会のために責任を持って行動する

自分とのつながり	他者とのつながり	社会とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ○自分のよさや可能性を知り、創意工夫して伸ばす ○自分の目標をもち、目標に向かって創意工夫しながら努力する <p>【自分の目的や感情に気づく】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○他者のよさや可能性を認め、尊重する ○進んで人と関わり、知恵を出し合いながら問題を解決する ○自分も他者も納得できる「納得解」を追究する <p>【共感する 相手の立場に立つ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の役割を考え行動できる ○自分や他者に責任を持った判断や選択をする ○学級、学年、学校、校区や地域等、自分にとっての社会へ積極的に関わり、よりよい社会づくりに貢献する <p>【社会との関わりに気づく】</p>

子どもが主役になる 大人が伴奏者になる学校づくり

3つのプロジェクト

学び

子どもが主役になる「学習指導」「家庭学習」

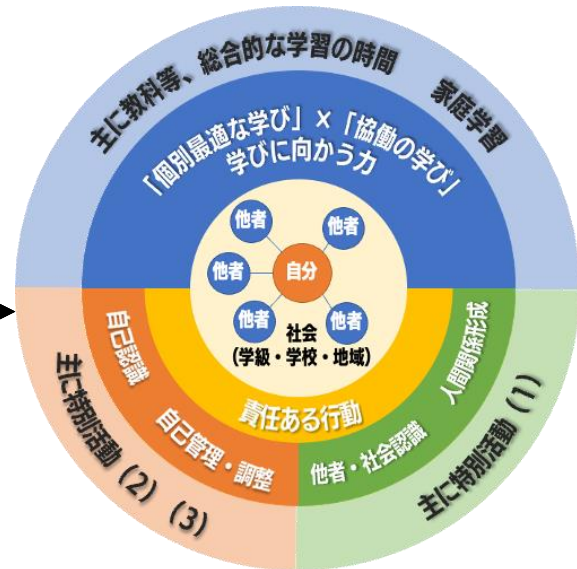
- ① 子どもの問い、目的に基づく学習
- ② 解決・達成の道筋を子どもと描く学習
- ③ 子どもの自己選択・自己決定がある学習
- ③ 子どもが学習する意義を実感できる学習

自分

- キャリアパスポートを活用して、長期、中期、短期の自分の目標と、目標達成のための方途を見通し、行動し、振り返って次につなぐAARサイクルを回す。
- 「自分」に関する学習プログラムを学年ごとに年間カリキュラムに位置付け実践する。

社会

- 学級づくりチャートなどを活用して、自分たちのめざす学級像について目標を設定し、目標達成のための方途を見通し、行動し、月単位で振り返って次につなぐAARサイクルを回す。
- 「対人」に関する学習プログラムを学年ごとに年間カリキュラムに位置付け実践する。



《風呂敷効果》
強みを伸ばす
ことで
好影響を広げる



《家庭・地域・関係機関との連携》

地域のひと・もの・ことを生かした、ふるさと学習《地域カリキュラム》の再構築